

とちぎの環境

平成26年度 栃木県環境白書概要版



栃木県

はじめに



私たちのふるさと栃木県は、清らかな水や美しい緑に満ちあふれ、雄大な山並みと広く豊かな大地に恵まれています。この自然豊かな美しい“とちぎ”の環境を将来の世代にしっかりと引き継いでいくことは、現代に生きる私たちの願いであり、責務でもあります。

近年、私たちは様々な自然の異変に直面しています。地球温暖化に起因する地球規模での気候の変化に伴い、集中豪雨や竜巻といった異常気象は私たちの生活そのものを脅威にさらすとともに、豊かな恵みをもたらしてきた生物多様性の損失なども危惧されており、今こそ私たちは、これまでも増して真剣に環境問題に取り組まなければなりません。

また、平成23年3月に発生した東日本大震災から3年が経過し、直接的な被害からは着実に復興を遂げているものの、原子力発電所事故に伴う放射性物質の影響やエネルギー問題など、今後克服すべき課題は残されています。

こうした中、県は、平成23年3月に策定した「栃木県環境基本計画」に基づき、「生物多様性ととちぎ戦略」、「栃木県地球温暖化対策実行計画」、「栃木県廃棄物処理計画」などの個別計画と連携して、「とちぎ環境立県戦略」や栃木県重点戦略「新とちぎ元気プラン」に掲げるとちぎの目指すべき将来像の実現に向けて、各種施策を積極的に展開しています。

加えて、東日本大震災からの復興を仕上げの段階へと進めるため、除染をはじめとする各種放射能対策や、県産農産物等の安全・安心の確保に取り組むほか、「環境と経済が循環しながら発展していく社会」など4つの基本理念に基づく将来像を掲げた「とちぎエネルギー戦略」を新たに策定したところです。

恵み豊かなふるさとの環境を将来に引き継いでいくため、そして、かけがえのない地球の未来を守り育くむため、県は、県民の皆様はもとより、国や県内市町、県内企業・団体とともに積極的に取り組んで参ります。

「栃木県環境白書」は、本県の環境の状況や平成25年度に県が実施した環境保全に関する施策等についてまとめたものです。本書を通して、県民の皆様は環境問題への理解を深めていただくとともに、「地球と人にやさしい“エコとちぎ”」の実現に向けた「行動」のための一助となれば幸いです。

平成26年9月

栃木県知事 福田 富一

もくじ	栃木県環境基本計画	1	(3) 土壌環境・地盤環境の保全	10
	I “エコとちぎ”を担う人を育てる		(4) 騒音・振動・悪臭の防止	10
	～環境を考え行動する県民の育成～		(5) 化学物質対策の推進	11
	1 自ら学び、自ら行動する“人づくり”	2	(6) その他の環境問題への取組の推進	12
	2 実践につなげる“きっかけづくり”	3	2 3Rの推進	12
	3 協働による“ネットワークづくり”	3	3 廃棄物処理対策の推進	14
	II かけがえのない地球を守る		IV 人と自然との共生を目指す	
	～低炭素社会の構築～		～自然共生社会の構築～	
	1 地球温暖化対策の推進	4	1 生物多様性の保全	15
	2 環境関連産業の振興	6	2 多様な自然環境の保全	16
	III 環境にやさしい循環型の社会を築く		3 環境を支える森林づくり	17
	～循環型社会の構築～		4 みどりづくり活動の推進	18
	1 生活環境の保全	7	5 良好な景観の保全と創造	19
	(1) 大気環境の保全	7	V 共通的基盤的施策を展開する	19
	(2) 水環境の保全	8	「栃木県環境基本計画」の進捗状況	21